

健康メモ

いまだきのお産〜高齢妊娠〜

正岡病院副院長
広島市医師会理事

正岡 亨

現在平均結婚

年齢が男性三二

歳、女性一九歳

となり晩婚化の

傾向がすすむ一



方、不妊治療の進歩も影響して少子少産化と並んで高齢妊娠が増えていきます。そこで高齢妊娠について少しお話ししてみます。

まず高齢妊娠の定義ですが、分娩予定日に満三五歳以上になる妊婦さんのことを言います。高齢妊娠の場合に注意すべき点は、年齢があがればあがるほど妊娠中の病気が増えて

くるということです。たとえば、流早産や切迫流早産、最近では妊娠高血圧症と言いますがいわゆる妊娠中毒症などの病気にかかりやすくなります。また子宮や胎盤の働きが悪くなるため、未熟児が育つたり赤ちゃんがお腹の中で弱ったりすることが多増えてきます。分娩では、種々の合併症や体力的な問題、そして子宮口の筋肉が硬くなるため難産や帝王切開も増えてきます。

また、染色体に異常を持った赤ちゃんが産まれる確率が高くなります。一般に若いうちは質の良い卵子が、年齢が高くなるほど質の悪い卵子が排卵される割合が高くなると言われます。その結果、染色体に問題がある受精卵が妊娠する確率も増えてきます。ダウン症をはじめとする染色体異常の発生は若年者の場合は一〇〇人に一人くらいの発生率ですが、三五歳をこえると三〇〇人に一人と

若干増えてきます。染色体異常に関しては、誌面の都合で詳細は割愛いたしますが、胎児に染色体異常があるかどうかは、羊水や胎盤の一部を採取して妊娠中に調べる方法もありますので、遠慮無く医師に相談されれば良いと思います。

といっても近年は医療技術、医療機器も進歩してきましたので、高齢妊娠をやみくもに恐れるのではなく、定期的に妊婦健診を受けて万全の体制で出産に臨む心構えが大切です。逆に若いからといって妊婦健診をおろそかにしたり不摂生な妊娠生活を送ると、別の面でトラブルが発生します。年齢にかかわらず赤ちゃんのためにも、妊婦健診をきちんと受けましょう。その上で私達医師ばかりでなく、社会全体で協力して支援しましょう。